

# Weekly Michael's News

2016年6月6日発行 No.3

## <今週の聖句>

「イエスは、別のたとえを持ち出して、彼らに言われた。『天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。』」  
(マタイによる福音書 13:31)

## <心を新たに「仕える」決意を胸に刻む!! リハビリテーション学部の白衣推戴式を挙行!!>

いつもは夕方5時に閉まるキリスト教センターですが、先週木曜日は全く違い、リハビリテーション学部の白衣祝福・推戴式が行われました!! 実習で使用する白衣に身を包んだリハ学部の1年生約90名が、少しの緊張とこれから始まる実習への希望を胸にチャペルに集まってくれました。下村学長は「白衣を纏う事によって、患者さんとの間に信頼関係を築ける治療者になって欲しい。白衣を纏う事は、そのための責任を纏う事だ!!」と厳しくも、温かい励ましに満ちた奨励を話されました。皆さんの学びの上に主の祝福が豊かにある事を願っています!!



白衣を着た学生で満たされる聖堂



白衣祝福では元気な声で返事



白衣の責任を問う下村学長

## <映像でより深く「知り」、「感じ」、そして「考える」聖書の世界…>

先週金曜日の午後、チャペルがまるで映画館のような迫りに包まれました!! 中原チャプレン主催で映画上映会が行われ、イエスの歩みをリアルに映像化した「パッション」(原題「Passion of the Christ」)が上映されました。参加者の一人、寛裕樹さん(リハ学部2回生)は、「迫力が凄かったですね。普通に聖書を読むよりも分かりやすく良かったです。」と感想を述べてくれました。ここ最近、アメリカでは聖書物語の映像化が一種のブームのようになっているようで、現在一部の映画館で上映されている「復活」という作品もイエスの死後の物語を映像化したものです。チャプレン室にも、聖書関連の映画がまだまだ沢山あります。

キリスト教センターでは、これからこんなイベントもどんどん増やして行きたいと考えていますので、ぜひ皆さんも奮ってご参加ください!!



イエスの受けた痛み絶句…



個人的にレンタルもできます!!

＜先週のメッセージ＞ ※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

5月30日（月） 前田 次郎（八代学院 理事長） テーマ：「主人の家系図が知らせるもの」

最近「家系図」なるものがにわかに注目を集めていると聞く。お金を出せば見栄えの良い家系図を作ってくれる業者もあるそうだが、「マタイによる福音書」の冒頭にはイエスの家系図が記されており、そこにはあまり公にしたいくない事件や女性の名が残されている。なぜか？それは「家系図」が今と昔をつなぐ意味を持ち、愛によって連なる力をもつものだからである。罪ある者、社会に排斥された者であっても愛し、連帯するイエスの系図に励まされながら今週も歩みたい。

5月31日（火） 山本 実季（経済学部） テーマ：「私を大きく変えた『変化』」

私は、交換留学プログラムを利用し、アメリカのワシントン州へ9ヶ月間語学留学をした。大学に到着した日、TOEFLを受けたが、最低点を取ってしまった。毎回の宿題の評価もCやDばかりで全てが無駄のように思えてきた時、アメリカの学生の学ぶ姿勢が目にとまった。予習・復習は当たり前で、深夜を過ぎてもロビーで何人も学生が勉強をしていた。自分の甘さに気付かされ、自分から積極的に学びに取り組んだ。すると結果も付いてくるようになり、勉強に対する想いが180度変わった。

また、勉強だけではなく、異文化理解の大切さも学んだ。教会に行き、食前の感謝を祈る。イスラム教徒であることから金曜の祈りを大切にしている学生を理解する学校。日本ではどうだろうか？一緒に過ごす事で、違う宗教や文化への尊敬や理解が深まり、世界や視野が広がり、異文化理解の重要性を強く感じた。深く感謝しつつ、次の歩みにつなげていきたい。



6月1日（水） 野間 光顕（チャプレン） テーマ：「私たちを癒す『痛み』」

私たちの身の周りでは、不便なものは、どんどん削り取られ過ぎ易くなっている。しかし、本当にいいのか？いつから日本は、痛みや汚れを避けるようになってしまったのだろうか？キリスト教の原点であるイエスは、その宣教活動の中で、隣人の弱さや傷みを自分のものとして大切にされた。このチャペルの中心に掲げられている十字架がその何よりの証だ。先述のような社会の中ではあるが、私たちが互いに弱さや傷みを担い合いながら共に歩みを進めていきたい。

6月2日（木） 滋野 英憲（経済学部） テーマ：「教育について思うこと」

私は大学2年の時に始めた家庭教師の経験から数えて、教育に関わって36年になる。その中で特に強く意識しているのが恩師から頂いた言葉「衆人皆師（教える者だけが師ではない）」だ。教師であっても学生であっても、自分だけが正しいと思い、自分の殻の中に閉じこもる独善的な人間に成長はない。出会う人と対話し、信頼関係を築き、そしてお互いに希望を見出すことが教育の持つ醍醐味であるように思う。

6月3日（金） 中原 康貴（チャプレン） テーマ：「ケンカの絶えない夫婦」

ある村に2組の夫婦がおり、一方は村の誰もが羨むオシドリ夫婦、もう一方は、絶えず喧嘩ばかりしていた。ある時、喧嘩が嫌になった2人が、仲良さの秘訣を探るためオシドリ夫婦を訪ねると夫は言った。「うちは決して良い夫婦なんかじゃなく、ダメな人間です。いつもお互いに謝ってばかりなんです。」この物語は夫婦間だけでなく、様々な人間関係に当てはまるように思う。ケンカの絶えない人間関係ではなく、笑い声の絶えない人間関係を築いていきたい。